

令和4年度第5回平塚市いじめ問題対策調査会 会議録

日 時 令和4年12月19日（月）午後5時33分～午後6時35分

場 所 平塚市役所本館3階302会議室

出席者 【委員】 芳川 玲子 氏（大学教授）
高橋 博丈 氏（弁護士）
小島 操子 氏（社会福祉士）

【事務局】 教育指導課

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

（1）「平塚市いじめ問題対策連絡協議会」報告について

○事務局から、6月に開催した平塚市いじめ問題対策連絡協議会について報告する。

（2）平塚市におけるいじめの実態について

○事務局から、「令和3年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」について説明し、意見をいただく。

<委員>いじめの認知件数が増えたということは、いじめについて積極的に捉えていることなので認知件数が増えることは良いことと考える。新型コロナウイルス感染症の影響で分散登校や学校閉鎖があった後、色々な活動が増え、気持ちが昂り抑えられずぶつかるのは状況として理解できる。

<委員>「ひどくぶつかられた」という部分の割合はどのようになっているか。

<事務局>ガイドラインの基準と照らし合わせて、学校の判断で報告していただいている。首から上のケガや治療が必要なものなどは暴力行為として計上してある。

<委員>都道府県別の認知件数を見ると、全国平均と神奈川県で神奈川県は低いように見えるが要因は何か。

<事務局>平塚市の認知件数は多い。「嫌なこと」という部分を全て報告していただいている。

<委員>いじめを見逃さないという意味では良いと思う。学校としてどうするかということが重要ではあるが、平塚市として認知件数が増えるということは良い傾向である。

<委員>不登校の要因についてお聞きしたい。小学校は「親子の関わり方」が全国に比べて高い。また「無気力、不安」も今回高い。事務局としてはどう捉えているか。

<事務局>「無気力」については、理由が明確ではなく「良く分からないけど漠然と不安を抱えているもの」を全てこの部分に分類している。各学校には要因についてアセスメントをお願いしている。本人に関わる要因だと「無気力」に当てはまる。

<委員>学年別の数値はあるか。

<事務局>この資料にはないが、学年が上がるにつれて多くなる傾向がある。

<委員>今日的には低学年が多くなる傾向にある。平塚市はいかがか。

<事務局>今後、経年変化で分析する。

<委員>いじめの対応について「金品を隠される」の件数が大幅に増えている。「嫌なことやはずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」も大幅に増えている。昨年度に比べ2倍ほどちがう。どう捉えているか。

<事務局>お金を隠されるということではなく、持ち物を隠されたり取られたりする件数が多い。もう一つは「嫌なことをされる」がほとんどである。

<委員>コロナ禍で本当に増加しているかどうかはもう少し前と比較しないと解釈が難しいかもしれない。今回をベースに令和4年度以降どうなるかということ考えると良い。

<委員>不登校の要因について、「いじめ」は0になっている。いじめで不登校となるケースについて、対応策等はいかがか。

<事務局>教育委員会が積極的に関与して指導助言を行っている。学校での取り組みの結果である。月3日欠席調査で聴き取りを行っている。

<委員>不登校の児童生徒の中で、どこか別の場所で指導されている記録はあるか。

<事務局>この資料にはないが、フリースクールや外部機関との関わりについては調査している。

<委員>どこにもつながっていない子はどこに相談しているかが気になる。

<事務局>担任や学年職員、管理職等、学校とうまく連携が取れている場合については「どこにもつながっていない」となっている。担任が連絡できない場合は他機関等につながっている。

(3) 今後のいじめ防止等のための対策について

※具体的な事案について協議するため、非公開とする。

4 閉 会